

当園ではこの度、2023年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

- 共同と、自主自立の芽生えをつちかう
- 心と体を健康に伸ばす
- 創造性を豊かにする
- 思考力の芽生えをつちかう
- 豊かな情操・感覚を養う

II. 今年度の重点目標

- 教職員の資質向上
- 安全管理体制の充実
- 家庭との協力・連携
- サービスの向上

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	評価	取組み状況
1	教育内容	保育の在り方やねらい、行事に関して、各学年で情報共有を行っている。特に日常保育についてその見通しを把握できている。 また、各学年で子どもの入園から卒園までの成長過程を意識した取り組みを行っている。	A	子どもたちが楽しんで参加できるような作品作りや保育内容を考え、実践している。子どもの自主性を目指しながら就学に向けた保育を工夫した。取組後も時間配分や内容が適しているか先生間で話し合っている。行事においても例年通りではなく、各学年が子どもたちのためにアイデアをだし、今までの良さとプラスで新しい内容が盛り込まれてより良いものになった。
2		保育の指導内容に関してはクラス間での差を生まないように情報共有や、相互確認を行っている。また、子どもの発達や特性に応じて適切な関わりをもつことができている。	A	クラス毎で経験に差が出てしまわないよう、子どもの一日の様子やその日に行った活動に関して学年内で話し合いを行った。制作のどの技法に興味を強く示したか、反対に苦戦していた作業はあったのかなど連携を取り、次の制作に活かすことができた。子どもたちの情報も連絡アプリやラインワークスを通して共有できた。
3		保護者に対し、園の教育、保育のねらいをしっかりと伝えられるよう園生活を「見てもらう機会」を作っている。また、その機会としてSNSを活用して保育内容の発信を行っている。	A	月に2回くらい、インスタグラムで子どもの様子を投稿し、保護者に見てもらえることができ、保護者アンケートでも好評だった。SNSへの掲載がNGな子についても、毎月撮影をしている集合写真をお渡しするなどできた。コロナ明けで沢山の行事が増えて充実した園生活を知ってもらうことができた。
4		園児への指導と関わり方や指導内容について、積極的に研修・研究を行っている。	B	様々な研修に参加し、他の園の保育の仕方や指導内容について学ぶことができた。
5	自主性の創出	日常的に子どもたちに対してほめるなど肯定的な言葉を多用することで、園児の自主性ややる気を促している。また、子どもの個性にあった接し方や声掛けを行ったり、必要に応じて子どもを見守ったりする事で自主性を伸ばすことができている。	A	1回失敗したら「できない」と口にする子どもたちに対して、「何度もやればできるよ」ということ、失敗しても良かった部分を1つでも「この部分は良かったよ」と伝えるよう努めている。子ども一人ひとりに寄り添い、その子なりの良さを認め、その子に合う言葉掛けをすることで、モチベーションをあげ、子どものやる気につながるよう心掛けた。

6	安全管理体制の強化	日頃の安全管理について意識的に取り組み、ICTの活用や終礼を通して情報共有を行っている。また、安全について子どもたちにも伝わるように取り組んでいる。	B	終礼の内容をラインワークスで共有することで、職員全員が園児の様子を共有・把握しやすくなった。安全について子どもたちにわかりやすいよう、絵本や紙芝居を用いて説明した。また、子ども達ともよく話し合うことで、安全についての理解を深めるように務めた。
---	-----------	--	---	---

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1		1日だけ担任を変えて制作をしたり、昼食の時間を見たりすることで子どもの様子や情報が共有できると思う。「各学年でどこまで育ててほしいか」の目標を全体で共有し、先生間での考え方のギャップを少なくしていく。そして、育てほしい力や体験してほしいことから「〇〇ができるようになるために、この活動を取り入れよう」などと、日々の保育に落とし込んでいけると良い。
2	教育内容	制作については統一しやすいが、遊びやゲームなどの進め方は職員によってキャリアや得手不得手もあるため、職員同士で連携を取る必要がある。 1学期に1回でも縦割りの活動をして、子ども同士のかかわりを増やし、職員同士の連携関係をつくる。
3		行事以外での日々の写真があれば、Instagramのストーリーに掲載しても良いかと思われる。園児の遊びの様子を見てもらう際に、「どうしてこのような遊びが必要か」などの保育の意図が保護者の方に伝わるように工夫できたら良い。
4		他園や様々な人の保育を見たり、見せ合う研修に参加する。 園外の研修で得た他園の、参考にしたい環境や保育などを園内でもっと共有し、取り入れていく。 終礼で園児に関する情報を共有をする際、困っている子について話し合う機会は多いが、その他の園児についても、情報共有を深める機会をつくりたい。
5		自主性の創出
6	安全管理体制の強化	子どもの体調の変化を見逃さないため、病気や怪我などの知識を増やす。 安全面について、園内の危険な箇所の見直しを実施し、とっさの対応など職員同士で話し合う機会を作る。 避難訓練の方法について、もう少し園児にとってわかりやすく安全な方法を考えるとともに、様々な災害パターンを想定してより緊急時に役立つ訓練にしていく。

V. 学校関係者の評価

教育内容

- ・担任が入れかわったり、定期的に縦割り活動をしたりするなどして、他の先生の姿に学んだり、自己反省する機会を持たれており、園内研修を充実させていると思いました。
- ・お迎えの際、積極的にその日の出来事も話していただき、普段からよく見て頂いていると感じます。また、担任の先生と話せない時、違うクラスの先生からその日の様子やケガの報告をして頂き、園全体で見て頂いていると感じます。
- ・片栗粉を使ったり、雪遊びやTシャツを染めるなど、家ではなかなかできないこと・楽しそうな内容、新しいことを色々と取り入れて頂いていると思います。
- ・SNSなどで発信して下さることで子どもとの会話の内容が濃くなりました。

自主性の創出

- ・自主性を育てる為に、言葉かけと見守りという点を意識して、職員相互でアドバイスできる環境作りも大切にされている様子が見えました。

安全管理体制の強化

- ・安全管理は、本当に大切なことで、近年ますます重要度が上がってきております。遊具・設備に始まり、食、衛生面、特に近年は感染症への知識等も職員ひとりひとりがしっかり持っている必要があります。さらに園内で研修を深め、研鑽に努めてください。
- ・園内の各クラスで流行している感染症などがあれば、掲示や通知してもらえるとマスク等予防できるので嬉しいです。

ご意見・ご提案

- ・発達について少し心配だなと感じたときに幼稚園内に相談できる人や場所があればいいと感じます。園に専門の方が来て相談できる日を設け、家庭と幼稚園双方の様子を聞いてもらう事で、細かい部分が伝わりやすく深く話を聞いてもらうことができるのではないのでしょうか。「こういう相談ができます」とお知らせがあるだけでも相談がしやすくなると思います。